

肺水腫とは

肺は酸素を取り入れ、体内で生じた二酸化炭素を排出するために、肺胞と呼ばれる小さな袋状の構造物に空気を取り入れています。この肺胞の周りには網目状の毛細血管が取り巻き、空気と血液との間で酸素と二酸化炭素が交換されています。

肺水腫はこの毛細血管から血液の液体成分が肺胞内へしみ出した状態です。肺胞の中に液体成分が貯まるため、肺で酸素の取り込みが障害されて重症化すると呼吸不全に陥ることがあります。

《原因》

- 心原性肺水腫…心不全で、血流が滞ることで起こる。
- 非心原生…心臓以外が原因で発生する肺水腫
- ・低アルブミン血症
- ・感電
- ・腫瘍
- ・敗血症 等

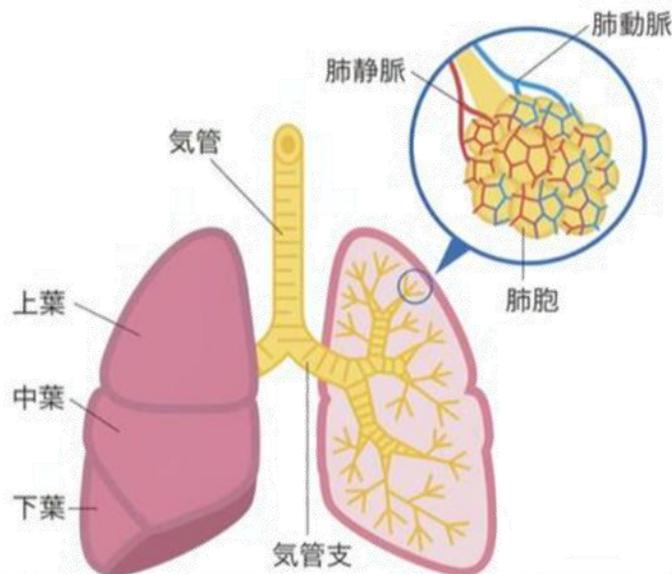
《症状》

- ・呼吸が荒い
- ・舌の色が悪い(白っぽい、紫っぽい)
- ・伏せが出来ない、寝れない

《診断》

レントゲンを撮影すると肺が白っぽくなっています。同様の所見を示す肺炎等との鑑別のため、エコー検査や血液検査を行います。

本人の状態によっては治療を優先し、すべての検査を行えないことがあります。



《治療》

◆ 内科治療

肺胞に溜まった水分は針を刺して抜けるものではなく、利尿剤を使って体の水分を尿として排泄させることが治療となります。そのほか、原因に応じて強心剤やステロイドなどを使用することがあります。

◆ 酸素吸入

体が低酸素状態になっているため、残存した肺機能で呼吸が賄えるよう酸素吸入が必要です。通常空気中の酸素濃度は21%ですが、酸素濃縮器を用いて酸素濃度を40%程度にした入院室が酸素室です。酸素室内で安静にしてもらいます。場合によってはレンタル酸素室をご自宅に設置してもらい、在宅で治療を行うこともあります。

《肺水腫の早期発見》

肺水腫は非常に危険です。発見が遅れると咯血を起こして亡くなってしまうこともあります。僧帽弁閉鎖不全症をはじめとした心疾患を持つ子では特に、日ごろから睡眠時の呼吸回数を数えて記録しておくことで早期発見につながります。

大人しく眠っている時に、「吸って吐いて」を1回とカウントしてみましょう。(15秒の測定でもOKです)

正常では1分間に30回未満ですが、通常時より10回以上多かったり、40回/分以上の呼吸である場合は肺水腫を起こしている可能性がありますのですぐにご連絡ください。